

夢ファームの栽培活動が順調に進んでいます。人に歓迎されない雑草ですが、「雑草という名の植物はない」という牧野 富太郎博士の言葉は、よく知られています。どの草にも名前があるように、人やものの名前も大切にしたいものです。

<朝会で話した主な内容> テーマ：「雑草のうた」

せっかく花を さかせても それでも平気さ みんなして	せっかく葉っぱを ひろげても むんむん草むら つくってく	ふりむいていく 人はない
どんなにのどが かわいても それでも平気さ 上むいて	どんなにほこりを かぶっても のびたいほうだい のびていく	水などくれる 人はない
オオバコ ハコベ ヒメジョオン それでも平気さ いつだって	ちゃんと 名前が ついてても きらきらしながら 生きていく	よびかけてくる 人はない

この詩の題名は、雑草のうた といいます。野菜を植えたのに、どこからか草が生えてきて、草取りをすることがあるでしょう。人に歓迎されない雑草という呼び方は、誰が使い始めたのでしょうか。

多くの植物に名前を付けて、日本の植物学の父と言われる牧野 富太郎（まきの とみたろう）博士は、「雑草という名の植物はない」と言われました。どの草にもみんな名前があり、名前を大切にすることは、その植物を大切にすることです。牧野博士が名前を付けた植物は、2500種以上といわれています。名前の意味を知ると、植物の特徴がよく分かります。皆さんも、いろいろな植物を観察して、知っている名前が増えるといいですね。

植物の名前はもちろん、人やものの名前も大切にしてください。

<感想>

- 1 雑草はただの草だと思ったけど、名前が2500個ぐらいもあるなんて知りませんでした。私もいろいろなものを大切にしていきたいと思いました。
- 2 一番心に残ったところは、雑草にも名前があるということです。雑草一つ一つに名前があり、すべて同じではないです。そして名前というのは、すごく大切なものです。雑草と言われるものにも目を向け、大切にしていけるのが人間のつとめだと思いました。
- 3 雑草というのはいろいろな草の種類で、きちんと名前が付いている。また、雑草は、花を咲かせないものもあるけど、人目に付かなくてもがんばって生きている。自分に付けてくれた名前も大切にしようと思いました。
- 4 雑草は、私たちのすぐ身近にあるものだけど、花のように美しくはない。私たちは、雑草の魅力を知らないだけで、本当は美しいのかもしれない。これからは、雑草もちゃんとした花の一員なんだということを知っておきたい。
- 5 今日のお話の中心は、名前の付いているものには必ず特徴があって、名前から特徴が分かるということです。ぼくは、そうか、だから名前はあるんだと思いました。これからは、その特徴を考えたいです。
- 6 野菜も雑草も命はあるなと思いました。小さな草にも気付いてあげようと思いました。野菜にもその理由があって、名前が付いているんだなと思いました。
- 7 いつも気にかけていない雑草でも、一つ一つ命があって、名前があると改めて思った。
- 8 雑草に名前があるなんて知らなかった。なぜなら雑草はそこら辺にあるから。名前を付けた人はその草を見分けられるからすごい。
- 9 人にも雑草にも名前があるから、名前を大切にしようと思った。牧野博士は、植物に対して思いやりがあると思う。
- 10 花は咲かなくても、見られなくても、一生懸命生きているし、人間だって喜びでも悲しみでも一生懸命生きているから、一日を大切にしたいと思った。
- 11 一つ一つの植物にも目を向けることが大切だなあとと思いました。これからは、道にある植物にも目を向けようと思います。
- 12 雑草はどこからともなく生えてきて、すごくたくましいと思いました。自分のそうなれたらいいなあとと思います。
- 13 雑草もしっかり生きていると思った。勇気の出るような詩ですごいと思った。
- 14 「皆、名前がある」という言葉で、いじめや差別のことにも目を向けた言葉だと感じた。